

琉球の方言¹ : 八重山石垣島川平方言

著者	法政大学 沖縄文化研究所
出版者	法政大学沖縄文化研究所
雑誌名	琉球の方言
巻	1
ページ	1-102
発行年	1975-09-30
URL	http://hdl.handle.net/10114/12184

1. 川平方言の主な特徴

(1) 母音は i i̇ a u e o の6母音である。

例 iri (射る) i̇zu (魚)
Fuṣi̇ (臼) an (綱) udi (腕)
Fukke:run (浮かぶ) so: (竿)

川平方言と共通語との単母音の対応関係はほぼ次の通りである。

川 平 i i̇ a u
共通語 i e a u, o

(2) 中舌母音の i̇ は i か u へ変化しつつある。i̇ は比較的 s・c・z の後では最後まで残る傾向にある。また、i̇ は語によって、個人によってもゆれており、たとえば、kak̇in (書く) は kakun, tuṙin (取る) は turun のようにもあらわれる。

(3) 語頭母音は無声化して摩擦音を伴うことが多い。

例 haka (赤) haṭu (跡)
ċita (板) Fuṣi̇ (牛)
Fukirun (起きる)

この現象は、八重山では川平方言だけに観察される。沖縄北部の一部の方言にも同様な現象がみられる。

以上のほかの頭母音には、音声的に? があらわれる。

(4) 無声子音と無声子音とに挟まれた母音が無声化する現象は、多くの方言でみられるものであるが、川平方言では、このほかに無声子音と入りわたり音が無声化した m・n・r に挟まれた母音も無声化する。入りわたりの部分が無声化する m・n・r は h_m・h_n・h_r のように表記することもできるが、ここでは簡略に ṁ・ṅ・ṙ のように表記することにした。

例 si̇ta (下) Fuṣi (癖)
ki̇mu (肝) ſumutsi̇ (書物)
paṇa (花) paṇi (羽)
paṛa: (柱) tuṛa (虎)

(5) カ行子音は k であるが、クに対応するものは Fu である。

例 kai (影) ki̇tsi̇ (傷)
Fuṣa (草) Fuṭsi̇ (口)
ki: (毛) ku: (粉)

また、キに対応する s'i̇ もある。

例 siki̇, siki̇n (聞く)

(6) ハ行子音は p であるが、フに対応するものは Fu である。

例 pa: (葉) pi̇si̇ (日)
Fuḱasa (深い) Fuṭa (蓋)
piṛa (辯) pu: (帆)

(7) 語中の g が脱落する。

例 kui, ko:n (漕ぐ) tui, to:n
(研ぐ)

(8) 動詞の終止形としていくつかの形があらわれる。

例 kak̇i, kaki:, kak̇in (書く)

連用形と同じ形が、このように終止形としても用いられる。これは宮古方言とつながるものである。

(9) 係助詞 du (ぞ) が多用される。

例 uwa du turu (君が取る)
imi du me:ri (夢を見る)

(10) 上・下一段活用の動詞に相当するものはラ行四段化の傾向にある。

例 kiranu (着ない)
Fuḱiranu (起きない)
Fuḱiranu (受けない)

(11) 形容詞は takasa, takasan (高い) の形と, kaija, kaijan (美しい) の形とがある。これは、ほぼク活用とシク活用との区別に相当するものである。